

京都府生協連

ニュース

2002年 7月 1日

NO. 38 (通算104号)

京都府生活協同組合連合会

京都市中京区烏丸夷川東南角せいきょう会館2階

TEL. 075-251-1551

FAX. 075-251-1555

第49回通常総会を開催

全議案が可決採択されました

第8次中計決定／「食品安全新法」制定へ特別決議／新理事・監事を選出



6月4日、池坊学園洗心館で、京都府生活協同組合連合会第49回通常総会が開催され、全議案を可決採択したのち、新理事・監事を選出、2002-2003年度の新体制をスタートさせました。来賓として、京都府商工部・奥原恒興部長、京都労働者福祉協議会・羽室武会長のご臨席をいただき、ご祝辞を賜りました。総会では、第8次中期計画(2002-2004年度)を決定したほか、食品安全をめぐる国政が大きく動き出したなかで、「いまこそ消費者権利を優先した『食品安全新法・新組織』を！」との特別決議を採択しました。



あたらしく選出された三役。左から、会長理事・吉田智道氏(再任)、副会長理事・小林智子氏(新任)、専務理事・小峰耕二氏(再任)の各氏。

CONTENTS

1. 表紙／京都府生協連第49回総会
2. 京都府生協連
4～5月度のおもな活動
3. 「食の安全」をすすめる学習と国会議員・
各党要請のつどい
4. 近畿府県連協議会と近畿農政局との意見交換会
5. 京都府山田新知事へごあいさつ／
農林水産部との懇談会
6. 京都府生協連第49回総会特集／
会員生協総代会開かれる
7. 7月～8月のおもな行事
京都府生協役職員研修会のご案内

京都府生協連

4～5月度の主な活動

(1) 行政や関係諸団体との関係強化の取組み

① 4月2日、厚生労働省、農林水産省「BSE問題に関する調査検討委員会」は、『BSE問題に関する調査検討委員会報告』を公表しました。

4月4日、農林水産省近畿農政局（企画調整部、農政部畜産課、黒木局長）と折衝しました。農政局管内の2府4県生協連事務局、及び関西地連と調整し、近畿府県連協議会（大阪、兵庫、和歌山、滋賀、奈良、京都の各府県連）主催で、「食の安全確保のために広く意見交換」を5月10日、開催することを申し入れました。



② 4月4日、京都府農林部農政課井上課長と食の安全に関わる行政施策について懇談し、意見交換会の開催を申し入れました。

③ 6月8日開催する「食の安全を進める学習と地元国会議員・各党要請のつどい」にむけて講師に日和佐信子氏、国会議員の奥山茂彦さん、穀田恵二さん、山井和則さんらに参加の要請に入りました。

④ 4月13日～14日、鳥取のコープ美敷牧場・ふれあい研修館でCO-OP牛乳産直交流協会の第12回総会が開かれ、40名が参加しました。2002年度の事業運営、産直活動の強化、牧場乳製品の製造販売、2001年度シンポジウムの開催まとめなどが話し合われ、2002年度は10月19日～20日に開催することなどが決まりました。



⑤ 4月16日、京都府協同組合連絡協議会女性役員・事務局会議が開かれ、国際協同組合デー京都集会の企画、今後の4連課題などが検討されました。

⑥ 4月20日、京都府障害者共同作業所連絡会2002年度総会が大宮町で開催され、来賓参加しました。全国の規約改正にともない、従来の名称（京都府障害者共同作業所連絡会）から「きょうされん京都支部」に変わりました。

⑦ 4月18日、全労済協会主催・京都シンポジウム「地域でささえ合う福祉のまちづくり」が、京都テルサで開かれ、700名が参加しました。京都府生協連は後援し、参加を呼びかけました。

⑧ 4月23日、労働者福祉研究会関西支部代表委員・運営委員会が開かれました。6月15日に、総会と研究集会の開催が決まりました。



⑨ 4月29日、京都府漁連主催「浦島エコローの森づくり」が伊根町太鼓山でおこなわれ、生協から50名のボランティアが参加しました。全体では250名の府民が、735本の木（シバグリ、コナラ、オニクルミ、カエデ、山桜）を植樹しました。府民代表で末川副会長が記念植樹。これは5年間の継続行事で、03年は4月29日に開かれます。

⑩ 5月26日、京都市消費者まつりが開かれ、京消団連が参加しました。

⑪ 5月10日、2府4県連合会と近畿農政局懇談会を開催しました。（「別紙報告」参照）

⑫ 5月20日、京都府協同組合連絡協議会事務局会議を開催。国際協同組合デー企画、「協同組合学校」などの企画の検討をおこないました。

⑬ 5月28日、京都府農林部との意見交換会を開きました（「別紙」報告）

(国会議員、京都府との渉外関係)

- ① 会員生協総代会、総会への来賓あいさつの要請
- ② 定例懇談会、役員研修会の開催内容、日程、部長参加について(消費生活課)
- ③ 食の安全を求める活動の理解、農林部との懇談会段取り、保健福祉部部长との懇談会開催要請、懇談内容について調整(保健福祉部生活衛生課)
- ④ 6月8日、「食の安全を進める学習と地元国会議員・各党要請のつどい」への参加要請
自民党奥山事務所、公明党山名事務所、民主党山井事務所、自由党中塚事務所など

(2) 日生協をはじめ、連帯強化の取り組み

- ① 4月9日、日生協総会にむけての地区別代議員会が開催され、2001年度のまとめ、2002年度方針や課題が議論されました。全体として事業、経営状況と強化の課題が議論されました。
- ② 4月19日、食の安全署名推進本部会議が開かれ、今後の取り組み方針や課題等を決めました。
- ③ 4月21日、やましろ健康医療生協の「7回健康まつり」に来賓参加しました。
- ④ 委員会が開催されました(別紙報告)
 - ・4月12日事業連帯委員会
 - ・4月24日福祉事業推進連絡協議会
 - ・5月28日食の安全推進委員会

(3) 各生協総代会が開催され、来賓、傍聴参加しました



総代会は、やましろ健康医療(5/26)、労働者住宅生協(5/20)、府・医大生協(5/23)、京都経短生協(5/23)、龍谷大生協(5/31)、京都生協(5/29)、工織大生協(5/18)、池坊学園生協(5/28)、京都医療生協(5/25)、乙訓医療生協(5/26)、府庁生協(5/22)、京都大学事業連合(5/26)、教育大生協(5/22)、立命館生協(5/31)、橘女子生協(5/29)、京大生協(5/25)、同志社生協(6/1)、エル・コープ(6/10)と、それぞれ開催されました。共済生協は7月31日に開催されます。

- ① 開催された全生協で理事会が提案した議案が採択されました。京都生協の02方針で反対、保留が200を超え、課題を残しました。京都府生協連役員も総代会に参加し、内容を知り、学びました。
- ② 大学生協は、組合員の「声をきく姿勢や観点」や



「商品づくり、お店づくり」の取り組みが定着してきましたが、事業経営問題が課題になっています。京都の多くの大学生協が累積赤字で、経営強化、事業経営の改革が課題となっています。それらをすすめる上で京都府生協連の役割も大切になっています。

大学生協の総代会はグループ討論、交流型の総代会が開かれ、みんなでつくる生協活動の議論が広がってきています。しかし、経営・事業問題までの議論にはいたっていません。

- ③ 介護保険実施2年目を迎え、京都生協、やましろ健康医療生協、乙訓医療生協などでは、ヘルパー事業、訪問看護ステーション、在宅介護事業等の福祉事業の取り組み実績や状況や今後の課題等が注目されます。やましろ健康医療生協では歯科(訪問歯科医療)活動が大変好評だなどの意見、期待の発言が出されました。京都医療生協ではレーザー近視手術について大きな期待の声が出されました。経営問題が課題になっています。

- ④ 理事長、専務理事の辞任、交代にともなう新任の方々には以下の通りです(敬称略)。

- | | |
|-----------------|-------|
| ・京都府庁生協理事長 | 成房智治 |
| ・京都府医大生協理事長 | 米林甲陽 |
| ・やましろ健康医療生協理事長 | 佐藤京子 |
| ・京都工芸繊維大学生協理事長 | 遠藤久満 |
| ・龍谷大学 専務理事 | 粟飯原利弘 |
| ・大学生協京都事業連合専務理事 | 酒井克彦 |

(4) 平和、環境活動などの分野

- ① 「2002平和行進実施要項」を決め、チラシ、ポスターなどの準備を行いました。
- ② 4月20日、京都原水爆被災者懇談会第40回総会、反核医師の会総会が開かれ、来賓参加しました。
- ③ 4月21日、京エコロジーセンターが伏見区藤森にオープンし、多くの組合員が見学に訪れています。

(5) 広報活動について

- ① 4月18日、『京都の生協 No. 45号』を発行しました。今回は、食の安全の取り組みを広げるために、全京都府内自治体議員に配布しました。
- ② 「ピースリレー2002-平和行進参加呼びかけ」チラシ、ポスター発行(5月5日)

6月8日、「食の安全」をすすめる学習と

国会議員各党要請のつどいを開催

～100名が参加／要請書を手渡す

6月8日、京都テルサにて、「食の安全」をすすめる学習と国会議員・各党要請のつどいが100名の参加で開催されました。これは、食品安全にかんする新法・新組織が設置される動きが急速につよまっている情勢のもとで、消費者の声をしっかり国政に反映させていこうという趣旨で開催されたもの。

おりしも、法定外食品添加物使用による菓子・ラーメン等の回収がおこなわれるなか、食の安全をすすめるとりくみとして、時宜にかなった企画となりました。

つどいは、京都府生協連・廣瀬佳代理事の司会のもとですすめられ、吉田智道会長理事が開会あいさつをのべました。



来賓として、JAきょうと中央会・地域振興対策部・野々口康史氏、日生協関西地連・高木誠司氏がご出席。報道関係では、京都新聞社、朝日新聞社、読売新聞社、毎日新聞社、サンケイ新聞社、日本農業新聞、京都民報社が取材され、ご関心のつよさがうかがえました。



学習講演には、前全国消費者団体連絡会事務局長の日和佐信子さんが「新しい食品安全行政のあり方」と題して、BSE問題などをつうじての食品安全行政の現状をリアルに報告、こんごのあり方を提起しました。

つづいて、尾松事務局長より、京都の生協の食品安全にかんする2年間の取り組みを報告、ご参加いただいた国会議員を紹介しました。

各議員からは、国会の動きと各党の方針を報告いただきました。出席いただいた方は、

- ◇自由民主党衆議院議員 奥山茂彦氏
- ◇民主党衆議院議員 山井和則氏
- ◇日本共産党参議院議員 西山とき子氏
- ◇公明党（メッセージ参加・山名靖英氏）
- ◇自由党衆議院議員 中塚一宏氏

※参議院議員松井孝治氏、参議院議員福山哲郎氏からも、当日メッセージありました。

報告にたいしては、会場から、現場の状況や怒り、表示問題などをふくめて発言があり、各議員からコメントがありました。



つづいて、小峰専務より、「食品の安全を確保するための新行政組織と法律に関する要請」内容を説明し、各議員へ要請書を吉田会長、京都生協・門脇専務理事、金澤理事、高畑理事が手渡しました。また、七夕に願いを込め、組合員手書きによる「ねがいカード」が各議員にわたされました。



最後に、大学生協京・滋・奈良地域センタ・沼沢副会長、京都生協高田理事より組合員の食の安全へのあつい願いと、国会での具体化を強く要望しました。

参加者からは「講師（日和佐信子さん）の臨場感のある報告で出席者の関心にこたえるものとなった」「各党から、4名の国会議員の出席にくわえ、メッセージ参加があり、世論形成のうえでも広範なものとなった」などの感想がよせられました。

とりくみについては、6/9朝刊各紙に報道されました。

5月10日、近畿府県連協議会・農林水産省近畿農政局 国民の食の安全を確保するための意見交換会」が66名の参加で開催されました。



5月10日、近畿府県連協議会・日本生協連関西地連の主催で、農林水産省近畿農政局との「国民の食の安全を確保するための意見交換会」が、大阪コロナホテルにて開催されました。

BSE問題・食品の表示偽装問題・食品の安全にかかわる新行政組織・農水省の「食と農の再生プラン」等について参加者から活発に意見が出され、農政局から回答・コメントをいただきながら進行了しました。

参加者は、生協関係：近畿6府県連12生協計50名（京都の生協からは8名）・日本生協連5名、近畿農政局11名（農政局長・企画調整部長・同課長・消費生活課長・流通指導官・物価係長・食品課長・生産経営部長・農産課長補佐・園芸特産課長・畜産課長）の合計66名。

新聞社は4社（朝日新聞・日本経済新聞・日本農業新聞・日本消費経済新聞）の取材でした。

農政局に直接、組合員の願いを

司会は、京都府連尾松事務局長・関西地連高木担当が行ない、関西地連川村事務局長が開会挨拶。この間の生協の食の安全を求める取り組みをふまえ、農政局に直接組合員の願いと法整備・新行政組織についての考えを提案したいとのべました。

黒木近畿農政局長からは「昨年来、BSE問題、食品表示の問題など消費者の方々には大変ご迷惑をおかけしてきたことについてお詫び申し上げたい」と冒頭に発言があり、「4月2日、BSE問題に関する調査検討委員会報告があり、『農水省の重大な失政』という指摘がされた。深く反省し、委員会報告を踏まえて、消費者に軸足を移したということがはっきりわかるような農林水産政策の見直しを行なう決意である」ことがのべられました。

新法・新行政組織についての生協の見解

ついで、日本生協連組合員活動部・北村氏より、新行政組織・新法の検討、論議にあたって求めるポイントとして、消費者の健康保護を最優先に位置づけ、新法の目的に明示すること、新行政組織には、独立性・透明性が求められること、リスク分析の手法の導入、表示制度の総合的・一元的な見直し、トレーサビリティシステムの整備、新法の制定と同時に食品衛生法など関連する法律の抜本的改正などの指摘がありました。

「食と農の再生プラン」

近畿農政局・永江企画調整部長、中村消費生活課長からは、「食と農の再生プラン」、JAS法の改正などの報告があり、「プランの中心は、食の安全と安心の確保であり、『消費者に軸足を移した農林水産行政』の中身がこれである。『食の安全と安心の確保』として、法整備と行政組織の構築、トレーサビリティシステムの導入、『食育』（食農教育）とリスクコミュニケーションの推進、JAS法改正で食品表示の信頼回復、新鮮でおいしい『ブランド日本』食品の提供の5項目を考えている」と話されました。

食の安全の新法・行政組織は歓迎するが……

意見交換では、11名が発言、京都からは京都府生協連・苅祥子理事が「農水省の失政と指摘されたが、それについての反省が感じられないのは残念。これまでの行政のあり方を反省した上で、今後の行政の改革の方向を語ってほしい。食の安全の新法・行政組織が作られることは歓迎したいが、それらの基本方針や運用次第で、どれだけの実効が上がるかが決まってくる。農水省は、BSE問題で生産者が被害者と考えているのではないかと。消費者も同様に被害者である」とのべました。

兵庫県生協連・井上事務局次長がまとめと農政局への期待をのべたあと、黒木近畿農政局長から「このようなコミュニケーションの場を今後各方面で設けていきたい」との発言があり、閉会しました。



5月7日、府生協連三役が

山田新知事にごあいさつへ

「食の安全」府内産品の消費拡大へむけて懇談

5月7日、府生協連・吉田智道会長理事、末川千穂子副会長理事、小峰耕二専務理事、尾松事務局長、坂本次長が、このたびに就任された山田啓二京都府新知事にごあいさつにうかがいました。京都府からは消費生活課課長・八島一美氏にご同席いただきました。

吉田会長理事からは、京都の生協の状況、食の安全をもとめるとりくみなどについて紹介させていただきました。

山田新知事からは、生協の個別配達や店舗、食品衛生にかんする行政状況、府内の産業振興、とくに地域産品の消費拡大についてなど、幅広い発言がありました。

短時間ではありましたが、なごやかな、ごあいさつの機会となりました。

5月28日、「食の安全」をテーマに

京都府農林水産部・京都府生協連食の安全

推進委員会との意見交換会を開催

5月28日、京都府庁旧館にて、「食の安全」をテーマに、京都府農林水産部と京都府生協連食の安全推進委員会との意見交換会が開催されました。

京都府農林水産部からは、井上農政課課長、森田農政課課長補佐、同課武藤氏、松井農産流通課参事、原畜産課課長が出席。

京都府生協連・食の安全推進委員会からは、小峰専務理事（委員長）をはじめ、京都生協（石黒マネジャー、竹内担当）、京大生協（友藤弘子管理栄養士）、京都府生協連事務局（尾松、坂本）が参加しました。



意見交換会は、①BSE問題、JAS法に関連する表示問題など、消費者の行政や業界への「不信」が高まっているなか、京都府が取り組まれている現状や課題について、お聞きし、生協の現場の実情もふまえ、課題となっていることなどを意見交換する。②4月2日発表された「BSE問題に関わる調査検討委員会報告」などをふまえ、国の段階でも食品安全施策、法整備、新行政機関の設置などが検討され、具体化されていく中で、今後、京都府での施策や事業内容が転換されるものと考えられるが、今後の食の安全に関わる期待事項、「課題」について意見交換をおこなう、ことをテーマに開かれたもの。

京都府の取り組み状況は……

小峰専務理事より、この間の食の安全をめぐる取り組み、今回の法律改正、新行政組織等の内容について、京都府生協連の考え方を説明。つづいて、尾松事務局長より、次の事項について質問しました。

- ①JAS法、及び関連法にもとづく、一連の「表示問題」についての、京都府の取り組み状況（肉類、野菜など一産地（原産地）表示、部位表示など）
- ②牛肉類の表示についての京都府の取り組みについて（屠殺場、加工メーカーなど）
- ③京都府行政の対策（指導）としてBSE問題、食品の安全の確保や食品表示問題についてのとりくみについて
- ④京都府の食品安全行政の充実強化。京都においても、食品の安全に関わる「基本方針」（例）または、「条例」のようなものが必要であり、それを進めるうえで、行政関係者、生産者、消費者、流通にかかわる関係者などが意見をだしあい、京都らしい食の安全施策やとりくみ課題を検討・議論する場の設置が早急に必要であると考えている。

「ふるさとビジョン」が作成されました

農林水産部各担当から、次の事項について説明があり、意見交換をおこないました。

- (1) BSE（牛海綿状脳症）についての京都府の取り組み。
- (2) 14年度の京都府の取り組み計画
- (3) 家畜個体識別システム緊急整備事業における京都府の取り組みについて
- (4) 食品表示110番の受付実績等について
- (5) 京都府内の生鮮食品品質表示基準遵守状況等調査結果について
- (6) 「ふるさとビジョン」について

食の安全推進委員からは、消費者権利を明確にした施策の転換要望、牛肉のトレーサビリティの具体化についての質問等があり、多岐にわたり意見交換をおこないました。

京都府生協連第49回通常総会開催される

京都府生協連第49回総会は、6月4日(火)午後1時30分から4時40分まで池坊学園において代議員、役員、オブザーバーなど60名余の参加で開催されました。

吉田会長理事のあいさつにつづき、来賓の皆様より、ご祝辞をいただきました。



京都府商工部
部長 奥原恒興氏



京都労働者福祉協議会
会長 羽室 武氏

京都府議会議長、国会議員全政党派をはじめ、関係団体から、71通の祝電メッセージをいただきました。

すべての議案が賛成多数で採択

提案された各議案は、13名の発言を通じて深められ、代議員の賛成多数で採択されました。

- 第1号議案 第8次中期計画決定の件
- 第2号議案 2001年度活動報告・決算報告承認の件
- 第3号議案 20001年度剰余金処分案承認の件
(監査報告)
- 第4号議案 2002年度活動方針・事業計画および予算決定の件
- 第5号議案 役員報酬限度額決定の件
- 第6号議案 常勤役員退職金支給の件
- 第7号議案 議案決議効力発生の件
- 第8号議案 役員選挙
- 第9号議案 特別決議「いまこそ消費者権利を優先した食品安全新法・新組織を！」

新役員紹介

任期は2002年6月4日から2004年総会まで。総会終了後に開かれた第1回理事会、および6月11日に開かれた第2回理事会で、任務分担を決定しました。

- <会長理事> 吉田 智道 (員外)
- <副会長理事> 小林 智子 (京都生協理事長) ※新
- <専務理事> 小峰 耕二 (京都生協常務理事)
- <常任理事>
 - 小川 正 (京都府庁生協常任理事)
 - 酒井 克彦 (大学生協京都事業連合専務理事・池坊学園生協専務理事) ※新
 - 田中 弘 (京都医療生協専務理事)
- <理事>
 - 粟飯原利弘 (龍谷大学生協専務理事)
 - 大関 健朗 (乙訓医療生協専務理事)
 - 大塚 正文 (京都橘女子学園生協専務理事)
 - 木村世志雄 (全京都勤労者共済生協専務理事) ※新
 - 佐藤 京子 (やましろ健康医療生協理事長) ※新
 - 吹田 知久 (京都府・医大学生協専務理事)
 - 平 信行 (京大大学生協専務理事)
 - 寺尾 正俊 (京都教育大学生協専務理事)
 - 沼沢 明夫 (立命館生協専務理事)
 - 廣瀬 佳代 (京都生協常任理事)
 - 松浦 順三 (京都工芸繊維大学生協専務理事)
 - 森川 隆 (やましろ健康医療生協理事)
 - 吉田 隆英 (同志社生協専務理事)
- <監事>
 - 島田 浩 (京都府庁生協監事)
 - 新堀 悟史 (乙訓医療生協理事) ※新
 - 疋田 利政 (同志社生協常務理事) ※新

今期で退任された役員は、次の4名の方です。

- <副会長理事> 末川千穂子 (前京都生協理事長)
- <理事> 筋 祥子 (京都医療生協理事)
- <理事> 小林 和美 (龍谷大学生協専務理事)
- <監事> 行松龍美 (やましろ健康医療生協専務理事)

13名の代議員から、食の安全を求める取り組み、組合員の声にもとづく商品・店舗づくりの活動や福祉、環境、男女共同参画など、全体方針を深め、より豊かにする発言がおこなわれました。小峰専務理事は発言をうけて、「京都府生協連が各会員生協の共同の場として、お互いが前進できるようがんばっていこう」とまとめをしました。

代議員発言—13名の代議員から
いきいきと報告される!!

① やましろ健康医療生協—佐藤京子代議員



「医療改革と地域ネットワークづくり」
小泉不況が深まっている中、昨年から急速にリストラ・失業が増えてきている。その為、健康保険証の変更、支払能力不能に陥った医療費の相談が大変増えてきている。私達やましろ健康医療生協は、患者さんの病気を治療するのはもちろんだが、現在ある福祉医療の制度を可能な限り活用して対応をすすめている。特に昨今、小泉内閣は医療改革と有事立法を重要な柱としてあげている。今後も医療改悪と有事立法に反対する取組みの中で地域から頼りにされる福祉・医療・保険のネットワーク作りに一層力を入れていきたいと考えている。

② 京都生協—掘田るり代議員



「経営構造改革の到達点」
京都生協の新21世紀ビジョン第4次中期計画のもとで「くらしづくり、まちづくり、生協づくり」に向かって、組合員と役員が力をあわせ取組みをすすめている。2001年度経営構造改革を具体化するために班構造改革・店舗事業改革・人事構造改革・不動産コスト対策・プロダクト改革の5つの対策をした。特に店舗事業の健全化、活性化に力をいれた。地域やくらしへの貢献と事業を継承することのできる店舗を目指して取り組んできた結果、直接剰余黒字を見通せるところまで到達できた。京都府生協連への要望としては、後追いではなく、これから先の私たちのくらしに対して的確な一歩先を見通せるような情報をスピーディーにコーディネートして欲しい。



③ 京都工芸繊維大学生協—鳥居克守代議員



「組合員とともにすすめるお店づくり」
2001年は組合員とともにお店作りをすすめてきた年でした。学生が中心となって購買改造計画と銘打って組合員から300を超えるアンケートをとったり、調査をしながら組合員によるお店作りを行った。食堂でも学生理事が中心となり組合員食堂利用向上プロジェクトを立ち上げた。組合員のお店作りを生協職員と事業連合の職員が一緒になって応援することができた。今後も漁連、JAと協力し地域生協と一緒に地産地消ができて行けたらよいと思う。



④ 生協エル・コープ—伊藤恵利子代議員



「産直・商品・環境の委員会活動」

2001年度で赤字が解消できた。これは当初、役員と一部の職員で引っ張っていった組合員活動が、組合員主導による活動に変わってきた一つの流れができたことによるのだと思う。産直・商品・環境の3つの委員会を中心に活動をおこなっている。産直のほうでは、無農薬の野菜が供給できるようになった。商品のほうでは、組合員の要望による開発、改善運動が進められている。環境のほうでは、組合員の暮らしに根づいた環境、組合員の暮らしを見直すことを課題にあげ、その手始めとして、昨年からは松葉によるダイオキシン調査、今年は17行政区で実施した。これからは一般組合員がなるべく参加できるような活動を広げていきたい。また遺伝子組み換え食品作物誕生以来、一貫して反対の立場をとっている。

⑤ 京都大学生協—友藤弘子代議員



「京大生協の使命とビジョン」

京大生協はこの一年、組合員の参加がたくさん見られた。京大生協は何の為にあるのか、価値はあるのか、今後どうするのかを2年間かけて議論して、【京大生協の使命とビジョン】というパンフレットがで

きた。この2年間かけた議論で一番変わったのは京大生協の理事会である。様々な専門力量を持った教官の参画、学生グループの参画が見られ、学生委員会の活発な活動が見られた。ある学生サークルに、京大生協の食堂の利用が近年減少しているのは何故かということでコンサルティングをしてもらった。独自にアンケートをして分析してもらい提案してもらった。その中で見えてきたものは夕食時間の延長の要望だった。それをうけて職員自らが自発的に延長するようになった。また宣伝も依頼して、今までに無いポスターが出来上がり、大好評である。学生委員会が生協ガイドンスを開いたり、学生の視点で生協のハンドブックもできた。生協と学生委員会、理事会が一致団結して頑張っている。今後は累積赤字をなくして、生協の組合員の要求が実現できるもう一つ次のステップが踏みみたい。



⑥ 京都府生協連—廣瀬佳代理事



「男女共同参画」

府連では、男女共同参画について昨年役職員研修会で、府立大学の小沢先生から経済のシステムと役割分担について講演をしていただいた。今の社会のゆがみの根本を提示していただいたように思う。今後この取組みをどう広げていくか、模索している。今までモデルとして私達が作ってきた枠組みでは納まりきれない状況が生まれてきている。状況の変化に対応できるように私たちのほうで変わり続けていかなければならないが、変わる視点のひとつに男女共同参画を取り入れてほしい。委員会に協力をよろしくお願いします。

⑦ 全京都勤労者共済生協—木村世志雄代議員



「共済事業の現状と課題」

バブル崩壊後、今まで考えられなかったほど保険の事業が大変厳しくなっている。経営の健全性に対する組合員からの問い合

わせが非常に多いが、自己資本率も支払い余力も生保10社に比べてはるかに多く安心していただける。15年の歴史ある「こくみん共済」と「自然災害共済」を2本の柱に、組合員にムリ・むだのない保障を組み立てていただくよう展開している。

⑧ 京都医療生協—山内博貴代議員



「府連会員間の協同連帯活動」

会員間の協同連帯について述べたい。府連の医療部会の活動は95年に発足し、府連管内の医療生協の連絡調整を中心に情報の交流、署名等府連理事会の提案を行っている。組合員交流会も昨年は乙訓医療生協で3回目の交流会を開き、介護をテーマに作家の草川八重子様を講師に招き、4コマ漫画での表現方法を学んだ。会員同士の協同の取組みが府連の中で取り組まれて、この活動が府連の活動全体を豊かにし、かつ会員生協の活動にも寄与します。

⑨ 京都大学生協—生駒時秀代議員



「国立大学法人化と生協」

国立大学の法人化についてのべたい。これは経済効率の観点から発生した問題だ。その為、地道な研究ができなくなり目の前の効率的な研究に血眼になる恐れがある。法人化は教育、研究を良くするものではない。法人化になっていく大学の中であって、大学生協もそれに対応した活動をしていかなければならない。21世紀ビジョンを如何に生かしていくかが課題である。





⑩ 立命館生協—末藤潤子代議員



「学生委員会の活動」

大学の中での学生の取組みを発言したい。立命館生協では学生と職員が組合員の要望を一緒に解決したり、実現する取組みを行ってきた。一緒に取り組むことで学生自身も何でも言ってみようと思えるようになり、食堂や店舗が身近に感じられるようになった。大学で何かしたいと思っている新生生に実現できる場として生協委員会を設けている。環境、旅行等、いろいろなテーマに分かれて活動している。学生が色々な活動を通して生協を身近に感じ、生き生きとした大学生活を送れるように手助けしたい。

⑪ 乙訓医療生協—村尾八代生代議員



「支部を単位とした活動」

支部を単位とした活動の確立を重点のひとつとしてきた。昨年6月に長岡京市と大山崎町に支部が形成された。2001年の特徴は支部を中心とした組合員活動が前進した点である。①健康を守る取組みとして、支部ごとに計画を立て健康チェック、青空チェックを行った。②自分たちの住んでいる地域の状況を知り、安心して住み続けられるまちづくりを進めるために町並みマップ（夢マップ）作りをはじめた。③自主的な健康づくりが活発に行われるようになった。色々なサークルをムリせず定期的に続けている。

医療改悪に反対する取組みや、有事立法に反対する取組みも進めている。長引く不況の中、組合員の協同による地域丸ごと健康づくりのスローガンのもと、医療生協運動の前進目指して頑張っている。

⑫ 京都生協—竹原由海子代議員



「安全・安心の産直のとりくみ」

組合員、生産者自らが安全、安心して食べられる産直商品目指して取り組んできた。BSEの問題、産地ラベルの偽装、加工商品の表示改ざんが明らかになり、不安な思いをしている。BSE問題では、生産者と消費者が手をつなぎ、狂牛病危機を乗り越える決起集会や学習会を開き、組合員への正確な情報提供など取り組んできた。食の安全について大きな問題がでてきている今だからこそ、安全安心の産直商品を提供していけたらと思う。



⑬ 京大生協—宮村浩一代議員



「問われる大学生協の存在価値」

国立大学の法人化の問題が浮上してきた今、自らの存在価値を再確認していこうという趣旨で【京大生協使命とビジョン】ができた。全体としてできる空間はどういったものか、これから大学内のあり方が変わっていくにしたがって、取り組んでいきたい。大学が法人として経営していかなくてはならない、その中で生協の役割、学内にどういった形で還元していけるのかが問われている。



各会員生協の総代会風景～活発な議論がすすみました



<声明文> 「有事法制三法案」の廃案を求めます

2002年6月8日 京都府生活協同組合連合会 理事会

今154国会に、「武力攻撃事態対処法案」「自衛隊法等改正案」「安全保障会議設置法改正案」の、いわゆる有事法制三法案が提出され、審議が行われていますが、「有事」とは「戦時」を意味するものであり、「有事法制」とは「戦争のための必要な法律」にはかなりません。今回の法案は、1997年に改定された「日米防衛協力協定」(ガイドライン)、1999年に制定された「周辺事態法」につづく、戦争法の整備にあたるものであり、重大な内容をもったものとなっています。

法案には、日本が外部から武力攻撃を受けた場合に備えての、国の意思決定のあり方、総理大臣の地方自治体への指示権、自衛隊の権限拡大、国民の戦争協力義務などが盛り込まれています。これらの点については、憲法理念に反するという疑義や、国民のくらし・自由と基本的人権をおびやかすことへの恐れ、そして国の根本的なありように大きな影響をおよぼしかねないということについて、多くの指摘がなされています。

しかも、提出された法案の特徴は、何をもち「武力攻撃事態」とするのか、その定義や、対処の範囲・内容、判断の時期など、法律としての要件そのものが、きわめてあいまいなものとなっていることです。このため、国民から疑問や不安の声が多数あがっており、この6月におこなわれた世論調査でも回答者の5割以上が法案に反対の意思を表明しています。

日本の戦後の生協運動は「平和とよりよい生活のために」をスローガンにあらたなスタートを切りました。今国会に提出されている有事法制三法案は、生協がもともとてきた願いとは、大きくかけはなれたものであり、基本的にあいられない性質をもったものであるとわたしたちは考えています。

くわえて、最近の政府首脳による非核三原則の見直しと核保有の可能性についての発言や、防衛庁の組織的な国民監視・身辺調査がおこなわれていることにたいして、つよい憤りの念を覚えるものです。

わたしたちは、今国会に提案されている有事法制三法案について廃案とすべきことを強く求めます。また同時に、会員生協の組合員一人ひとりがくらしに関わる重要な問題として、平和の問題について学習し、考えあい、ピースリレー2002 京都のとりにくみを力づくよくすすめることを呼びかけます。

おもな行事のお知らせ 7月～8月

◇7月3日 国際協同組合デー京都集会
(福知山市)
2002年7月3日(水) 10時30分～16時

【会場】 京都府立中丹勤労者福祉会館
(JR「福知山」駅 徒歩10分)

【テーマ】
「京都府における地産地消運動とつくる大切、
とる大切、食べる大切」

◇理事長懇談会(7月23日)

◇京都府生協役員職員研修会(7月24日)

【開催時間】 13:30～16:00

【会場】 せいきょう会館

【協力】 京都府商工部消費生活課

【研修テーマ】

「時代の変化と生協事業の今日的なあり方—IT
革命の動きと生協運営や事業への影響」

講師 京都大学大学院経済学研究科

助教授 若林靖永氏

◇8月23日～24日 第2回京都府協同組
合職員体験・交流学校

◇京都府総合防災訓練(9月7日、亀岡市など
8町)

「ピースリレー2002京都——平和行進」
～6月26日、京都から奈良へ引継ぎました～

